


ふりがな 氏名	たかはし なおや <b>高橋 尚也</b>	都道府県	<b>埼玉県</b>	
所属/肩書	<b>埼玉大学大学院理工学研究科 博士前期課程</b>			
私のESD活動	<b>スウェーデンで調査した環境教育に関する報告活動、スウェーデンの環境教育の実践活動 (@学童保育 in 関東)</b>			

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

効果的な環境教育は市民に“人間活動が自然環境に与える影響に関する理解を助ける”、“成人後の科学リテラシーや科学技術への関心度を増進する”という考えのもと、環境教育及び科学教育の理論と実践を行っています。

**<理論>**

持続可能な社会の形成には科学技術の使用は不可欠であり、科学技術をどのように支持するかについて市民が関心を持つことも同時に必要なものとなります。

そこで、環境・科学に対する関心度の高いことで知られるスウェーデン国内の成人に対して、科学技術に対する態度や理科・環境教育についてアンケート調査/ヒアリング調査を行いました(2015.8-2016.6)。その結果、就学前から始まる様々な環境教育が成人後の科学技術に対する関心度に大きく影響していることが示唆されました。そしてその教育は教育機関だけではなく、自治体や企業が協力し合い連携して展開されていますが、現在はそのネットワークのあり方について調べています。

**<実践>**

帰国後は、①.その調査結果や、スウェーデンの事例を紹介・提言する活動や、②.そのデータや結果を元に、日本国内で機能させるために、その取り組みにおける背景などを考慮し、修正を加え実践しています。現在はその一部を埼玉県内の学童保育の団体の方々の協力のもと、小学生(低学年—高学年)を対象に実践しています。

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？**

今後、スウェーデンで調査したことに関する発表を控えています(サイエンスアゴラ、生化若手の会夏の学校 など)。それらの発表を通し、様々な立場の方に対して情報の発信を行うと同時に、意見を伺いより効果的な(科学技術と社会の関わりを伝えられるような)理科環境教育に関する取り組みを行いたいと思っています。

スウェーデンでは、教育機関のみならず、企業や自治体を始め多様な主体が連携し街全体で環境保全などの持続可能な社会を形成しようとする背景がありました。そのこともあり、スウェーデンの成人は環境保全やそれに関わる科学技術などにとっても高い関心を持ちます。日本でも持続可能な社会を考えた際に、独立活動のみではなく、異分野が連携し強固な取り組みを行う必要があると思っています。今後、様々な場での発表に加え、今以上に教育機関を始め様々な立場の方と連携を高め、それを実現したいと思っています。

また、国内に限らず、海外の事例を紹介することで、新たなアイデアをそのネットワークの中で生み出していきたいと感じています。